

第1回 夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略策定委員会

議 事 概 要

日時：平成27年9月1日（火）18:00～21:00

場所：夕張市市民研修センター 2階 大会議室

夕張市清水沢地区公民館 2階 会議室

【次第】

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 策定委員長任命、アドバイザー及び事務局紹介
- 4 副委員長指名
- 5 議事
 - (1) 「夕張市まちづくりマスタープラン」のふりかえり
 - (2) 人口分析及び現状課題について説明
 - (3) 各委員自己紹介・夕張に対する「おもい」発表
 - (4) 課題等共有

【おもな意見】

Aグループ

- ・雇用の観点からみた夕張市の課題は、求人と求職のミスマッチがあることと、そもそもの求職者が不足していること。
- ・夕張市は高齢者が多いため、介護施設が多いがその働き手が少ない。また、定年後の高齢者の方には働く場所を求めている方が多いが、門前払いされているような状況。もっと高齢者を労働力として活用できるのではないか。
- ・「ゆうばり再生の会」はJ C（日本青年会議所）の全国OBで組織されており、知恵と情熱、ネットワークを駆使し、財政破綻した夕張でなにかできないか、ということで設立に至った。旧夕張小学校に「みんなのとしょかん」を設置し、今後各地区に設置しようとしている。また、財政破綻してから一時期開催できなかった「夕張もみじ祭り」の開催も引き継いで開催している。その他まちづくり団体の経験から今後も様々な取組を実施すべく活動している。
- ・夕張に来た当初は市外の人に夕張を発信したい、という思いがあったが、今は市内の人に夕張の良さを発信していきたいという思いがある。夕張にはたくさんの地域資源がある。いずれは、夕張に住んでいる人が夕張の良さを語れるようになるものをつくれたらと良いと思う。

- ・夕張にはたくさんの森林資源がある。市では今年からカラ松林を伐採したところに薬木を植え、樹皮を漢方に活用しようという施策も推進している。
- ・森林資源の活用の観点から考えていきたい。例えば、イタヤカエデのメイプルシロップの提供や、山歩き・スポーツ合宿としてのトレイルランニングの場所などの活用が可能と思う。
- ・知名度の面で、夕張は他のまちよりもすごく得をしていると思う。夕張をもっとPRできる方法があるのではないかな。
- ・夕張では会社の設立や不動産の取引が少ないと感じている。新しい会社の設立は、雇用を生むので、これから増やしていきたい。
- ・はまなす会館と旧夕張小学校では、障がいのある方とお弁当を作り高齢者を対象とした配食サービスの実施や、放課後の子どものデイサービス、自然エネルギーを活用した野菜栽培、空き教室を活用したカフェなどを行っており、こうした取り組みから地域のコミュニティをつくれたらと思う。
- ・登山やカヌーなど、アウトドアの面から夕張の自然の魅力を伝えていきたい。
- ・まずは若い世代の住む場所を第一に考えるべきだと思う。高齢者は市営住宅に入居できるが、一定程度の収入のある現役世代が住む住宅は本当に限られている。至急対策が必要だと思う。
- ・若者が少ないのは切実な問題だと思う。夕張の良さはすぐにわからないかもしれないが、長い年月をかけて、生産年齢人口が老年人口を上回るように結び付けていけると良いと思う。
- ・夕張は良くも悪くも全国的に知名度があるので、夕張をPRし、人が出ていかないように活気あるまちになれば良いと思う。
- ・夕張の良さは、地域の方との交流がたくさんあり、地域の方から話しかけてくれたり、優しく対応してくれる。
- ・夕張は自然豊かなので、遊ぶ環境としてうまく利用できると良い。また、みんなで集まって遊ぶことできる場所が文化スポーツセンターしかなく、そこからの交通手段も限られているので、子どもたちが遊ぶ機会が少なくなっているのではないかと感じた。
- ・習い事やクラブの人も少なくなっているが、夕張出身の選手などの育成が大切と思う。
- ・今後のスキー場のあり方は課題と感じる。例えば、ナイターの時間が19時で終わってしまうため、学校終わりの子供たちのトレーニング時間が取れず、それが成績につながってしまう。また、地元選手だけでは活動できず、全国からメンバーがきてなんとか活動できている。

- ・夕張の突破口として、スキーの観点から見ると、現在スキー業界は外国人に目を向けて営業しており、国内ではニセコ・白馬・野沢温泉がそうした視点で成功し、外国人が多く集まっている。これから日本のスキー業界は外国人が対象となり、そこで成功したスキー場が勝ち組になると思う。外国人を受け入れることができる環境や英語を話せるスタッフの育成など、対応していく必要がある。
- ・技術面の指導だけでなく、留学の機会を設けたり、英語学習の推奨等にも取り組んでおり、スキー業界で活躍できるような選手を夕張で育成するべく取り組んでいきたい。
- ・定年を迎えた高齢者が再雇用を求めている。継続雇用で働くことができる方もいるが、定年を迎えて一回離職すると、再就職はかなり難しい状況になっている。そういう方の力を活用していけると良い。
- ・会社では若手を求人しているが、応募に来るのは60歳以上が大半である。夕張の建設業では特に若手は少なく、60代、70代で元気な方が多い。
- ・若者が少ない原因としてはやはり、夕張市で住む場所がないのが一番の課題だと思う。
- ・市営住宅は所得制限のため入居することができない。また、民間賃貸住宅は少しずつ建設されてきているが、栗山の方が、家賃が安い場合があるのでそちらの方に行くのだと思う。
- ・学校の先生からは、進路に迷っているのなら大学に行くよう勧められることが多いようだ。また、大学に行っても夕張では就職する場所がなく、夕張で働くよりは他の場所で働いた方がこの先安定すると言われていたこともあるようだ。将来は夕張で保育士をしていきたいという想いはあるが、安定した企業を呼ばないと夕張で働くのは厳しいと思う。
- ・何かチャレンジする場所として夕張は良いと思う。夕張という場所だから、今飲食店を営業できていると思う。夕張での可能性を打ち出していけないと若い人は来ないと思う。
- ・市外から夕張に通勤している人から見ると、そもそも夕張に興味がないと思うので、そういう人に対して夕張に親しみが持てるような取り組みや機会が大切ではないか。
- ・例えば、合宿所をつくりたい、民宿をやりたいなど、起業に関する問い合わせを受ける場面が多い。ただ、起業したい人はいるが、紹介できる資源(物件)のミスマッチが起きている。個人事業を増やしていきたいと思うが、それに対し応えるのが難しい。
- ・新たに「交流の里きずな」ができ、そこの支援が必要と考える。1泊2食付きでみると「ひまわり」よりも安いですが、一方で利用者からは「多少高くても食事を充実させてほしい」等の意見もある。利用者層の要望を踏まえて改善していくべきと思う。

- ・「何のために夕張へ来るのか」という点について、もっと明確なものが必要。そのためには例えば、夕張の人が夕張の魅力を語れるようにならなければならないと思う。

また、営業しているのか営業していないのか、よくわからないお店が多くあるのは良くない。例えば石炭博物館はやっているのかとよく聞かれる。夕張の主要観光施設がそのような状況であることは良くない。まずは足元を固めることが必要である。
- ・熊本から来た人から「夕張の人と話したかった」と言われたことが大きく心に残っている。

まちの人がまちのどういうところが良いのか、明確に言葉にするのは難しいかもしれないが、見つけていきたい。
- ・冬はスキーの合宿で来る人が多く、学校の研修旅行では年間平均 20 校来ており、結構多い。

夕張はレッスンがしやすいとエージェントから好評であり、専門的なアルペンをやる方からもリフトの効率が良いと好評である。

しかし、研修旅行はどうしても同じ時期に重なるため、インストラクターの確保が大変であり、限界が見えている。スキー場に来る合宿よりも、道外のお客さんに対して積極的にアピールし、営業を行えば、利用者数はもっと伸びると思う。
- ・ニュージーランドやオーストラリアは景気が良いこともあり、現在スキー人気が非常に高い。

近年は日本の文化に触れ、またスキーも楽しみたいという外国人観光客が多く、一方でコアなスキーヤー達からも北海道のパウダースノーは好まれている。

実は、北海道ほど降雪の機会が多い場所は世界的にも非常に希少であり、北海道のスキー場にはまだまだ可能性があると感じている。
- ・夏に関しても、夕張のグラウンドは宝物であり、夏も冬も合宿やスポーツ選手の受け入れを行えば、まだまだ活気が生まれると思う。
- ・今年はカヌーに乗ってみたいという市内の方が多かった。市内の人にどんどん良さを分かってもらいたい。また、夏休みや冬休みは子供たちも時間あり、夏や冬もできることがたくさんあるので、様々な自然体験を行い、夕張の自然の良さを伝えていければと思う。
- ・自然資源や歴史資源を活かして何か整備するにしてもお金がかかるが、財政破綻している夕張では公的な資金をあてにするわけにはいかないので、民間の活力が必要だと思う。民間企業が夕張に投資しても魅力あるまちにならなければお金が集まってこないと思う。
- ・今ある施設をどう PR していくか、ということもあるが、まずその前に夕張の人が夕張を知ることが大切だと思う。地元の方で地元をよく知らないことが多い。夕張に住んでいる人が、夕張を魅力的に語れるように発信していくことも必要。

- ・森林資源の活用は、1 から始めると時間がかかる。今までやってきたカラマツは 40 年くらいしないと使い物にならない。今回植栽しているキハダという薬木の原料になる木は 15 年で使えるようになる。樹皮は生薬の原料になり、中身は木工クラフトやバットの原料にもなり、短期間で多目的に使うことができる。
- ・小さいことでも良いので、夕張でまず何かを始める人が増えたら良いと思う。例えば、森林資源を使ったクラフトに関する作り手と呼び込むなど、ローカルベンチャーの取組みを手伝い、小さな雇用を創出していきたい。

Bグループ

- ・夕張の良いところをうまく活用していくことが重要だと思う。
- ・夕張の良いところとしては、「自然が豊か、空が近く星がきれい、紅葉がきれい、札幌や千歳が近い、人柄がいい、治安が良く地震が少ない、スキー場と JR が直結している、思ったほど寒くない、時間がゆっくりと流れている」などがあると思う。
- ・逆に気になるのが、「街並みが分断されている、集合住宅が多い、若者の休日の過ごし方」などである。
- ・昨年、真谷地の市営住宅の集約化に参加した。入居者の話を聞くと、真谷地に住んでいたい人が多く、こうした希望を実現するようなことに携わっていきたいと思った。
- ・市営住宅を活用した二地域居住なども考えられるのではないかな。
- ・夕張で生まれ育ったが、最近は人口減少や店舗の少なさ、小児科が無いことなどが気になっている。
- ・一方で、交通面では札幌まで 60 分で行けるし、星がきれい、また清水沢の市営住宅の建設で公共施設の充実を感じている。
- ・夕張で生まれ育った。かつては小中学校が 30 校という時期も経験している。現在の生活には特に不便を感じていない。
- ・清水沢に拠点（市営住宅の集約化）が課題となっているが、かつて計画のあった南清水沢から栗山に至る道路が整備されれば、札幌はもっと近くなると思う。
- ・学校では近年生徒数の減少もあって、一部の部活動が夕張の生徒だけでは成り立たなくなり長沼と合同で部活を行っているものもある。

- ・白糠もかつては産炭地域であったが、炭鉱を経営していた会社の方針等から、炭鉱住宅としては個人住宅が多く、その後は不動産業が成り立っているようだ。
- ・夕張は集合住宅が多いが、子どもたちに地域の住生活を教えることが重要だと思う。
- ・地域の資源としてエゾシカの活用も考えられるのではないか。
- ・メロン農家は夏場に人手が足りず、南幌町から来てもらっている例もある。
- ・夕張が直面する課題は多いが、ひとつひとつ優先順位をつけて実行に移していくことが大切だと思う。
- ・廃校になった小学校が、その後別な用途に利活用されていることは良いことだと思う。
- ・市内の介護施設では、利用者の家族も高齢の方が多く、札幌等に居住している方の場合は面会も少ないのが実情である。
- ・家族が夕張高校生に通っており、やはり部活の生徒が少ないと話している。
- ・最近子どもが減っていると感じているが、もっと夕張の魅力を PR して人が集まってくれば保育園なども充実していけると思う。
- ・市外から引っ越してきた直後、当初は何の情報も無いため、「子育て支援センター」のようなものが有るのか無いのかもわからず、レースイの託児所に子どもを預けて何とか出かけることができた、ということがあった。
- ・住み始めてからある程度の時間が経ち、周囲の人とつながりができてからは、皆が子どもを可愛いがってくれたり、助けてくれたりと、今では最高の環境だと思っている。
- ・市外から引っ越してきた当初は住むところが見つからなかったため、市営住宅に入ったが、入居条件の問題もあり、最近、民間賃貸住宅に移った。役所内でもこの案件について、庁内ワーキングを設置する等して議論しているが、意外とまちを知らない人が多いようだ。
- ・南清水沢のバス停で下校時の中学生を見かけたが、雨天時等に待つ場所すら無いのが実情である。
- ・夕張に住んでみると特に出ていく理由は無いと感じている。夕張のさまざまな資源で、使えるものは使うというスタンスで取り組みたい。

- ・外から入ってきた人にわかりやすい情報発信が必要だと思う。あくまでたとえばの話ではあるが、紙ベースよりも即時性に優れるメールや携帯の専用アプリを開発するなど、使用するメディアについても検討すべき。
- ・保育園では近くの公園に出かけることも多いが、ごみが散乱していたり、遊具が劣化しているなど、使える公園が少ないように思う。自然の中でかけっこなど、遊び方は工夫で何とかなる部分もある一方で、子どもの運動能力向上のため、遊具が必要な場面もあると思う。
- ・学生が部活帰りに立ち寄れる場所が無いのが問題だと思う。現状ではコンビニくらいしかない。
- ・休日に学生が遊びに行く場所は、市内だとスポーツセンターくらいしかない。市外へ出る場合は札幌、千歳、苫小牧で買物やカラオケ等に行く。
- ・児童・生徒はスクールバスにより下校時間が決まってくる。安全・安心を考えると、コンパクト化に逆行するかもしれないが、各地区ごとに児童館のような集まれる場所があるべきかと思う。
- ・出産、育児を考えると、市内に産科、小児科が必要である。妊婦や小さな子どものいる母親が、自分で車を運転して市外の病院へ行くというのは、特に冬場などにおいて非常に辛い。
- ・スクールバスに左右されると、皆で遊べないので、やはり地区ごとに溜まれる場所があるべきではないか。
- ・人口減少を食い止めるには、まず出て行く人をどう抑えるかが重要であり、そのためにはニーズに合った住まいの提供（空き家や中古住宅の活用、土地提供など）が必要である。
- ・企業からハローワークに短期雇用等で求人を出しても、求職者の希望する条件が高い（正職員など）ため、なかなか雇用に結び付かない。
- ・若手メロン農家の多くは独身であり、夏場は市外から人手を集めている。
- ・かつては、夫が炭鉱で働き、妻が農家を手伝っていた。一つの仕事で全ての生計を担うのではなく、複数の収入源を持つという考え方もあるのではないか。
- ・平取のトマト農家では、婚活によって道外から奥さんが来ることが多く、これが地域の活性化につながっている。
- ・夕張でももっと積極的に婚活を推進し、女性が夏は農家、冬はリゾートで働けるような環境づくりも必要ではないか。

【意見総括】

Aグループ

- 視点1「夕張の資源を活用した雇用を創出する」
 - ① 若者が住む環境を備えること
 - ② 情報発信すること、若者が話し合う場を設けること
 - ③ 高齢者の雇用を創出すること
 - ④ 外国人客を対象とした事業をつくっていくこと
 - ⑤ 森林資源を活用した雇用を創出すること
- 視点2「新たな人のながれ・交流人口を生む」
 - ① 地元の人々に夕張の魅力を発信していくこと
 - ② 何のために夕張にきてもらうのか明確にし、夕張で何をやっているのかわかりやすく情報発信すること
 - ③ 夕張のスポーツ施設を活かしていくために道外へ発信すること、外国人観光客を対象としていくことも大切
 - ④ 不動産を流動化していくこと
 - ⑤ 民間の活力を生かすこと

Bグループ

- 視点3「若者の定住の促進」
 - ① 住む場所の確保：市営住宅の入居条件の緩和、持家促進、空家の活用
 - ② 雇用の確保：収入など安定した雇用条件の整備、メロンの農家の婚活や夏・冬での農家とリゾートの就業連携
 - ③ 子育て支援：子育て援助に関するわかりやすい情報提供、産科・小児科の確保、公園の活用
- 視点4「まちのコンパクト化、拠点形成」
 - ① 地区のたまり場：中心拠点のほかに、地区別、年代別に溜まることのできる場所づくり

課題解決に向けた想い

- ① 夕張にいまあるモノを活かすこと
石炭博物館や市有林、旧小学校、夕張というネームバリュー、市営住宅等
- ② 夕張にいまいる人を活かすこと
高齢者、よそ者の知識や情熱、郷土愛を持っている人、若者等

⇒ 資源を活かしていくためには夕張にいまいる人を活かすことが大切であり、これらの人を育成し、交流を創出していくことが必要。